

## 【2010年度JCAS共同企画講義 実施報告】

### ● 平和構築論：地域文化研究から見る災害と復興支援 授業アンケートより

被災することは日ごろから抱え込んでいた問題が一気に噴出することだというのがよくわかった。(文科Ⅲ類、1年生)

災害時には被災していない外部者の役割が重要で、外部者と被災者の関係がきちんとつくられるかどうかで復興を左右すると思った。(文科Ⅲ類、1年生)

人道支援の実務者の話を直接聞いてよかった。支援の基準を設けて遵守する信念と、実情にあわせて応用する力の両方が必要だとわかった。(文科Ⅲ類、1年生)

言葉や数にあらわされないものに目を向けることが重要だということがよくわかった。(文科Ⅲ類、1年生)

ボランティアだけでなく、それぞれの立場や専門性を生かした関わり方を考えることが重要だと思った。(理科Ⅰ類、1年生)

ある意味で「冷たい視線」が研究者の被災者の「思い」を浮かびあがらせることを知った。(文科Ⅲ類、1年生)

「災害が社会を開く」という考え方が新鮮だった。(文科Ⅰ類、1年生)

人道支援の際には、現地の事情や社会構造を知り、相手が発する一つ一つのメッセージを読み取る力が大事だとわかった。(文科Ⅰ類、1年生)

将来、目の前の壊れたモノだけでなく、その地域の被災前からの課題そのものに対応する復興支援に携わってみたい。(文科Ⅰ類、1年生)

「逃げる」という災害対応があることが目からウロコだった。移動力や流動性の高さが社会のレジリエンスを保障するという考え方がおもしろかった。(文科Ⅰ類、1年生)